

## パナマ政情(内政・外交)

### 1 内政

#### (1)金融専門家委員会報告書

ア 18日、金融専門家委員会はバレーラ大統領に、国際的な物流、企業及び金融サービスのプラットフォームとしてのパナマの強みを確かなものにするための提言に係る報告書を提出した。同大統領は、「本報告書は国際社会におけるパナマへの疑念を払しょくすることのみを目的としていない。各委員の専門的知識、並びに政府から独立した立場からの分析結果を受け取った。政権発足当初より、資金洗浄、並びに組織犯罪及びテロ活動への資金供与を防止し、透明性を確保した高い国際基準を満たすための一連の対策に取り組んできた。同委員会の提言に基づき具体的なアクションプラン策定に着手する」旨述べた。

イ ピース元同委員会委員は、本報告書は、金融システムにおける問題点を改善する印象を与えるものであり、「パナマは、金融面でのネガティブな注目を浴びないため、国際協定に署名し法改正を行うという多大な努力を進めている。新しいルールを適用することが今日の課題である。汚れた経済との闘いの行方は、パナマだけではなくロンドン、ニューヨーク、ジュネーブをはじめとする世界全体で責任を負うべきものである」旨述べた。なお、本報告書は21日に公表された。

### 2 外交

#### (1)パナマ・墨首脳会談

14日、メキシコを訪問したバレーラ大統領は、ペニャ・ニエト墨大統領と首脳会談を行い、移民、治安及び貿易等の優先すべき二国間の課題の見直しについて協議した。バレーラ大統領は、「今次協議は、二国間関係及び両国民のためだけでなく、より良い世界を実現するための努力を確認する良い機会であった」と述べた。

#### (2)サイン・マロ副大統領兼外務大臣のアルゼンチン訪問

21日から24日までアルゼンチンを訪問した同副大統領兼外務大臣は、ミケティ亜副大統領及びマルコーラ亜外務大臣と会談し、政策対話メカニズム、並びに2017年前半に両国外務省の主催で開催される国際協力合同委員会を通じて、治安、人道援助、南・南協力、海上及び航空アクセス等における協力を進めていくことで合意した。同副大統領兼外務大臣は、拡張運河が有効活用するため戦略的パートナーシップ協定を提案し、「パナマは、アルゼンチン産品を輸出する多様な輸送手段を提供し得、物流の面で同国の戦略的パートナーになりうる」旨述べた。

#### (3)サイン・マロ副大統領兼外務大臣のチリ訪問

ア 24日、同副大統領兼外務大臣はブラド・ラテンアメリカ・カリブ経済委員会事務次長と会談し、域内、特にパナマの経済及び開発の現状について説明した。また、同委員会による最新報告書に言及し、パナマの租税に関する国際基準の遵守につき説明し、「金融及び国際的なサービスのプラットフォームの適合に関し、今日のパナマには何の懸念もない」旨述べた。

イ 同日、当国貿易産業省及び貿易投資促進機関主催の「パナマ投資フェア2016」の開会式典において、同副大統領兼外務大臣は、「拡張運河と物流及びサービスのプラットフォームは、両国の貿易関係を強化する大きなチャンスである」旨強調した。

(4) 第159回米州人権委員会(CIDH)公聴会の開催

ア 29日から12月7日までパナマにおいて第159回米州人権委員会(CIDH)公聴会が開催され、13ヶ国から提起された37の課題について協議が行われた。

イ 29日、開催式典においてバレーラ大統領は、「本件公聴会の開催を歓迎する。パナマには人権を尊重する民主的な文化が根付いており、表現の自由及び透明性等をさらに進めている。パナマは、人権及び移民の権利に関する国際法をより厳格に適用することに合意しており、移民の一部をなす個人の保護を保障しようとする地域及び多国間レベルでの努力を支持する。また、人権及び文化的権利の振興にかかる政策、戦略及び計画を策定しようとする国際社会の努力に加わる。これらの人権擁護にかかる国内法の整備、制度改革を含む戦略の下、制度強化を検討している」旨発言した。

(5) バレーラ大統領とトランプ次期米大統領との電話会談

21日、両者は、電話会談を行い、組織犯罪、麻薬及び治安分野における両国の協力関係の重要性について協議し、近く会談を行う旨合意した。

(6) カストロ・キューバ前国家評議会議長の葬儀

バレーラ大統領は、29日にハバナで行われたカストロ・キューバ前国家評議会議長の国葬に出席した。なお、インカピエ外務次官及びバスケス社会開発大臣が随行した。

(7) コロンビアにおける旅客機墜落事故

パナマ外務省は、28日夜、コロンビアにてブラジル・プロサッカーチーム「シャペコエンセ」の選手らに乗せた旅客機が墜落した事故に関し、哀悼の意を表明するプレスリリースを発出した。